



倭志系圖





後長系番

一條院 清母后

ありとありせ給ふり 一巻は見えたり

かかれさせ給ふり 二巻より見えたり

後一條院 清母女城大政大臣のむすめ

一巻より見え給ふり 二巻より見えたり

四巻よりありありせ給ひて又一巻流乃流す

まふす也

始宮 内母弘徽皇后送湯院内女

一和宮 清母后

送湯院白皇太后宮よりせ給ひて母院ありとあり

後長系

治小時實^も養^もよきなりお給ひて女院わしゆゆ一
 多^二流^三く^多流^味ひて後^のり一^カ一^三流^三ひてさ
 の大將の如きよちるも流^のり一^三卷^二よ^カん
 たり四卷^のり^カくれせ給^もよ
 ね母女院のおもはる一^カ多^三流^二は^カ位^のよ三^カ卷^二に^カ帝^カ
 のくそわに治^カせん^カとて^カ花^カ薫^カよ^カの^カら^カひ^カて
 女院とともなりおそ^カも^カせ給^もよとあり三^カ卷^二嫁^カ聚^カ
 の時三十^カ歳^二也^カさ^カ衣^カよ^カ丸^カお^カひ^カて^カ四^カ卷^二よ^カ尼^カよ^カち^カり
 てやぐてくれ給^もり

漢^カ院^カ

序^カ母^カ同

一^カ卷^二よ^カり^カ位^の位^の時^カ天^カ稚^カ子^カお^カま^カく^カり^カ二^カ卷^二り^カ

治^カ元^カ年

ありおま^カせ給^もひた^カり^カあ^カり^カして^カ漢^カ院^カは^カ位^の給^もよ
 春^カ宮^カ 序^カ母^カ中^カ交^カ 攝^カ川^カ大^カ臣^カ廿^カ

一^カ卷^二よ^カ一^カ宮^二也^カし^カん^カし^カり^カ二^カ卷^二に^カ表^カを^カり^カ立^カ給^もよ
 若^カ宮^カ 序^カ母^カ皇^カ太^カ后^カ宮^カ先^カ帝^カの^カり^カし^カと

二^カ卷^二よ^カせ^カ給^もよ^カ七^カ百^カと^カり^カ少^カよ^カ母^カ交^カり^カせ^カ給^もよ
 小^カ院^カ院^カ小^カの^カり^カひ^カ給^もよ時^カさ^カ衣^カ太^カ約^カよ^カあ^カづ^カ給^もよ
 尚^カと^カ八^カ大^カ將^カの^カ子^カ女^カ二^カ交^カり^カ治^カ殿^カさ^カの^カん^カり^カ給^もよ
 あり三^カ卷^二り^カ治^カる^カ由^カさ^カせ給^もよ四^カ卷^二よ^カ治^カ元^カ服^カ
 共^カ部^カの^カ宮^カと^カり

私^カ 三^カ卷^二よ^カ一^カ多^三流^二の^カ宮^カに^カ治^カ給^もよとあり四^カ卷^二に^カ治^カ元^カ服^カ
 時^カ今^カ上^カ一^カ宮^二と^カあ^カり^カれ^カり^カ又^カ一^カ多^三流^二の^カ宮^カと^カり

漢^カ院^カ

二卷後多虎女宮に定り三卷小侍勢下流ひし女

三三三三内三三入通三三又三三八三三より流ひしとらん

堀川堀川大内大内 淨母淨母同后同后殿殿と一巻一巻よりより又又しより

一巻流儀流儀院院ののひひつつ后后殿殿ややああんんふふみみて

内内ううくくををははくくををりり流流ひひしし後後衣衣大大納納のの定定し

私私六六十四十四代代園園鞆鞆院院ははのの中中ににははままてて一一巻巻又又園園白白

とある二條堀川堀川し四巻四巻又ありの北内門北内門より

まり堀川堀川院院と号号せし

今上今上 淨母淨母先帝先帝御妹御妹の女女を

今上と八狭衣狭衣大納大納のの流流ひひし一巻一巻又二位二位の中中將

同九月九月又中納中納云二巻二巻はは月月又大納大納云云ててたたららぬ

より流流ひひし一巻一巻又五月五月五日五日御御衣衣流流ひひしし天天稚稚子子

あまあまくくりり流流ひひしし女女二宮二宮をを流流ひひせんせんとの流流ひひ

しがしが後後又又一巻一巻流流ひひしし三巻三巻にに流流ひひしし流流ひひしし

しし流流ひひしし二巻二巻又又流流ひひししああままてて著著契契善善隆隆

ありありの流流ひひしし二巻二巻にに變變成成せせてて御御衣衣流流ひひししをを流流ひひ

流流ひひしし大納大納神神衣衣なりなり感感しし流流ひひしし四巻四巻にに流流ひひししをを流流ひひ

私私神神代代卷卷下下れれ初初又又天天皇皇王王乃乃子子れれ天天稚稚度度のの喪喪

乃乃りりありあり一巻一巻にに源源中中納納ととありあり又又十八十八年年ととあり

四巻四巻又又流流ひひしし神神衣衣又又天天照照大大納納はは若若かりかりてて即即位位し

一宮一宮 淨母淨母中中衣衣或或了了之之女女

四巻はむすれ給ふ今上乃一宮としり

松 男内子乃二葉の十月袴着

一和宮 淨母亮為升乃帥平中納言女

一巻は殿の内七月まではうへ下取通まで母

君をさちきうにおむのまへのがはると具

して幸懸としりあてむすれ給ふ百目

るして一條乃一和宮のゆみありて服着

とてうづき給ふ三巻なりは袴は太政大臣

まより給ふ四巻なり一和宮とてしり

松七葉の時袴はうへひ大及と二本あり

四巻弘徽殿なりお給ふ又二宮とてしり

の次おれたまは高家兼あり

中宮 淨母式部卿宮中女坊上

はがのまんは位の耐事り給ひて一宮うま給ふは

えいめめそく一巻なり皇后宮とあり式部卿

の姫君へ乃文下下枝乃奇あり

今姫君 母一葉の赤れ童八葉中納言のつり

一巻は在院上むいそり給ひてうづき給ふは子

と名のりおとあらうへしおとほんり入給ふは

在院上後一葉は位は時三巻はまのつりせん

やう給ふり太政大臣の子穿お申給ふは

やうしてありおとにあらうて君通さうみ給ふは

四巻より刀をとりかかるとして母代ありあり
終ひてゆへ吉野川をたふらわすれとせし
りし人

私母代ハ西國の受領と四巻よりあり

先帝

式部卿宮

これ終へる一巻より刀をとり

後式部卿宮

これ終へる一巻より刀をとり
宰相中將

一巻より實少將とあり四巻より宰相とあり

○二巻より衣とあり三巻より終ひくその終ひ

三位中將とあり

私一巻より衣とあり二巻より終ひ
一巻より中將の位とあり

男子 私一巻より今眼をみるなりとあり

今形をとりし版文の中將とあり

私一巻より終ひとあり二巻より終ひ

藤原

藤原名也とあり後位の時一宮とあり

私一巻より宮女とあり二巻より終ひとあり

堀河上

堀河の土屋乃如方さきのことにまゐりて中宮ちのみやと云ふ御みの

てしや花やうりかちやもあましくりて

—たまふ

源氏宮 津母中納言のき

津来つきたよむまれ給ひてやがて父帝ちみかよとられ給ふ

母はは息い下くだも打うけ給たまはさる給ひて堀河ほりがわ土屋つちやの

母はは文ふみは内うちおもせよとあましやう—がけよみあ—てむ

くまりてう—づま給ひて狭衣はなは土御つちのみあま

くまりてう—づま給ひて狭衣はなは土御つちのみあま

ふ—にま—給ひてまを給ひて狭衣はなは土御つちのみあま

堀河土屋上

四巻よむき中な宮みや土屋つちや乃如方さきのことと云ふ

あしおもせし—とあましやう—下くだ位ゐ乃如方さきのこと乃如方さきのこと

狭衣はなは土御つちのみあま

私わが一巻ひとまき—大宮おほのみやとあり

後のち上のうへの美み容よう乃如方さきのこと乃如方さきのこと

とあましやう—とあましやう—とあましやう—

—三巻さんまき—母はは乃如方さきのこと乃如方さきのこと

私わが一巻ひとまき—十五じゅうご卷まきとあり二巻ふたまき又またおもせ給ふ

又またの服ふくは給ふとあり四巻よむき又またおもせ給ふ

八道はちだう又またおもせ給ふとあり

堀河土屋上

堀河土屋上

徳川院宮上

宮上は徳川院宮上とありて源氏宮上は名流に服
志終へらとありて帝の御前とありてやひ
又同卷より中務宮とありて

二卷より甲午六歳ちねも
又同卷より中務宮とありて

中務宮

水将

天宮の御前ありて五月の御前

二卷の末に中務宮の御前

徳の中將とありて西へて徳宮の
御前ありて

姫君

弘徽皇后ありて大將より
西へて天宮の御前ありて
一とありては徳宮の御前
の御前ありて

赤部郷宮上

徳宮の御前ありて
徳宮の御前ありて
徳宮の御前ありて

横川修都

女ニ父乃流グーガウー一人、后宮乃流ガ
もろべー
皇太后宮沙加

大政大臣

後一修院中、祖父世よりありて一人三巻
今娘君の流より母君に流腰ゆひ一人

一修院女流

中より皇太后宮と申す三巻又尼よちる流ひ
女流も実母流一巻流二巻又ちどの流母也

私三巻又二巻の流よりすし流より四巻にこれ始

東院上

堀川大臣乃水方今娘君と表長て後一巻流へ
まじりてらんともひ一人流あり

左大臣

一巻又指中納言又月五日天宮乃流の下流ひ
右流聖いしき一人二巻小権大納言とらん
一和文をとらんひて中納言君にうきひ一人
一和文の御事とあひしひし一人

四巻又一の大納言とありて皇太后宮大史あり

私云外乃流ハ誤也一太納言も皇宮の大史也

其の舎形乃るもし田巻より大納言ハ故座の別座とあり同巻にてた大座より又関白にあり候ふ

大納言

一卷又左近衛右大臣の御子此後筆頭ひきし人三巻に筆頭中將少て今姫君より人

私云 三巻又権大納言とあり田巻に新中納言中

おとしひとも今八家お中將とぞいふ又同巻に末

又今姫君の内よりとあり候ひ一室お中將ハ

比は乃大納言少て其又大更け候ふと
少將 母今姫君

三巻又変座の候ひより一人よりあり
うもせ也とあり

姫君 母

四巻又母上 官よりよりも今より候ひ

一やと

左大將

家御中將

天より候ひの候 和親より一人

直權度女侍

後一多事候 其文の法時よりより候ふとあり

とあり候ひ 候後より候ひて 運送より候ふ

あやめのやより候ひ一人

私云 三巻より五千餘

一巻にあり
左の巻の
右大段

内職を造る者此位の時まらさんとあるは
人也

巻首

揚川 大段 鼻 高うんやのあひ一人推
中 絶え身
私 一巻より春文へまらさんとあるは造るは也

後仕大綱言

巻首

いひの巻首 揚川 一人と四巻よりあり
後仕大綱言

仰平中綱言 九列せうせはるう一人也

巻首

く自志あり一人二巻のあり 後仕大綱言
まらてう 揚川 一人と四巻よりあり

揚川 一人と四巻よりあり

一巻より大巻あり 威儀師よりまらさんとあり
後仕大綱言
揚川 一人と四巻よりあり

乳母がまゝにひめてさ衣の大乳母乃
夫邦大陣九列一ちるにせげりしと
あひて唐泊せりるをさるるに長門守れ
わ方よりあひて帝終あて二あま生なり
て後尼りあてくれぬ
帝終尼子

三巻
自とハ一巻流の女流り中観てまゝ長
門守はめとまをてはくへらりあま井
御一ちり一人三巻はまゝなり

小室桐君
一巻流の女流はまゝあまを大將時々の終ひ

人長門守のまゝにあはれし中三巻はまゝなり

松四巻末中おとあり
流前守小室

これハ長門守り始あまなり

今姫君母

一巻流は童少て流一舞川大長物の流り
ゆへ今姫君成ゆめりやあまん又あの子ひと
あまのまゝ申おのまゝあまのりせ

別當

一巻は右巻流の流と云三巻は左巻流の流
あまの流若れゆるとて終し人

流前守

少将

一巻は源氏物語の御ひはるきとてうけいし
私一巻より源氏物語あり

大貳乳母

一巻は源氏の御ひのときあり

一巻は源氏物語の御ひのときあり
あり初三川守は源氏物語の御ひのときあり
肥後守

式部大輔通成 源氏物語の御ひのときあり
里々屋の御ひのときあり

一巻は源氏物語の御ひのときあり
二巻の御ひのときあり
肥後守

道季 源氏物語の御ひのときあり

一巻の御ひのときあり
二巻の御ひのときあり

常陸守

中納言内侍 源氏物語の御ひのときあり

二巻の御ひのときあり
源氏物語の御ひのときあり

私内侍の御ひのときあり

多しき中細云のさしけは又内侍のまけ
其又中細云に内侍ととすなり

内侍乳母

一巻は一ふまの乳母と衣のちち
さしけの内侍おろして下へおろし人

中細云君

さ衣乃立まづの衣推大細云いざりこめられ

て堀は被衣は成母の内侍よりし人

出重云内乳母と大乳母と入道云内乳母あり

入道官よりし人ありとてさしけのまけ

ひそ母まじは乳母よりし人ありとてさしけのまけ

少将内侍 女二ふまにぐりありとてさしけのまけ

乃糸奏せし人二巻よりし人

大細云の乳母 源氏云の乳母室に八徳あり

一乃内侍よりし人ありとてさしけのまけ

三巻は被衣のまけにんといひ人

字佐 名の類 源氏云へ表云よりし人ありとてま

けりし人二巻よりし人

木幡乃内侍 堀川屋に内侍傳天美内子の

一内侍加持せし人

伊藤守 天美内子よりし人ありとてさしけのまけ

せし人

中細云 一巻は被衣のまけにんといひ人

あつては源氏文へまのり終ひてつるもぬるちち
先ちもさだまありし時はあつてつるもぬるちち

中納言 同時はさへ下り終ひし人

侍 一巻は乃の代乃源 堀川の源氏文

一巻は乃の代乃源 堀川の源氏文

私 一巻下り侍内侍とあり

宰相 中納言の姫君の乳母一巻下りあやめ

よかへ接衣なりなりし人二巻のうらむるなり
らむてし終ひし人

私 乳母下り小宰相とあり人二巻はあり

中納言 二巻の女房なり女房也みらのをそある

女房下り人

おのり中納言 一巻は乃の代乃源 堀川の源氏文

又下りつる人

中將君 三巻は弘徽皇后のうらむる人の歌とあり

中納言下り人

中納言 源氏文の女房なり女房也みらのをそある

一人

長門守あやめ源氏文の女

中納言の少納言は乳母也

私 一巻下り女房下り接衣は寄よみつけたり

二巻の女房のあつては長門守に中納言の女房

新しと二巻あり長門守の娘

大納言 又舞舞し人二巻にたつり

長日巻 あまの針 乳母男

あまの針 母の女房

あまの針の女房

あまの針 そりしは解

あまの針の乳母の志し

左巻の指物 さまらと一巻の又と

一人三巻にあり

中将君 一巻の乳母の志し

あまの針の志し

新巻の巻物 針物とて指物

一人三巻にあり

女刺巻とせんとし 源氏の女房三巻にあり

宰相乳母 あまの針の乳母は供養の目を

あまの針の一人三巻にあり

山僧部 あまの針の僧部とあり三巻に大納

言の巻物とせんとしあまの針は

あまの針の志しと大納言の志し

あまの針の志し

あまの針の志し

あまの針の志し

まづりの使（一） 若衆はさし回春ありあり
 堀川院（二） 抄（三） 抄（四） 抄（五） 抄（六） 抄（七） 抄（八） 抄（九） 抄（十）
 抄（十一） 抄（十二） 抄（十三） 抄（十四） 抄（十五） 抄（十六） 抄（十七） 抄（十八） 抄（十九） 抄（二十）
 抄（二十一） 抄（二十二） 抄（二十三） 抄（二十四） 抄（二十五） 抄（二十六） 抄（二十七） 抄（二十八） 抄（二十九） 抄（三十）
 抄（三十一） 抄（三十二） 抄（三十三） 抄（三十四） 抄（三十五） 抄（三十六） 抄（三十七） 抄（三十八） 抄（三十九） 抄（四十）
 抄（四十一） 抄（四十二） 抄（四十三） 抄（四十四） 抄（四十五） 抄（四十六） 抄（四十七） 抄（四十八） 抄（四十九） 抄（五十）
 抄（五十一） 抄（五十二） 抄（五十三） 抄（五十四） 抄（五十五） 抄（五十六） 抄（五十七） 抄（五十八） 抄（五十九） 抄（六十）
 抄（六十一） 抄（六十二） 抄（六十三） 抄（六十四） 抄（六十五） 抄（六十六） 抄（六十七） 抄（六十八） 抄（六十九） 抄（七十）
 抄（七十一） 抄（七十二） 抄（七十三） 抄（七十四） 抄（七十五） 抄（七十六） 抄（七十七） 抄（七十八） 抄（七十九） 抄（八十）
 抄（八十一） 抄（八十二） 抄（八十三） 抄（八十四） 抄（八十五） 抄（八十六） 抄（八十七） 抄（八十八） 抄（八十九） 抄（九十）
 抄（九十一） 抄（九十二） 抄（九十三） 抄（九十四） 抄（九十五） 抄（九十六） 抄（九十七） 抄（九十八） 抄（九十九） 抄（百）

斯きところも此系借ち西三條道遠院
 入道竟空尊者の法化をむ精撰する
 一丁のふり他本をある免換合する
 展轉書寫のあやまち損原の文字
 又前後の錯亂ありて是れを和さ
 まるべきところなく本出考合て清
 書せしめり予の存應甲午歳仲
 夏日東京黄基山釋野切臨叟誌

子應之甲午歲子姑吉辰

為丸通二条上二町目

三木氏親信梓行

Handwritten marks or signatures in the bottom right corner.

